

第2次亀岡市まちづくり協働推進実施計画 取組状況

1. 目指すべき「かめおかの像」共有と課題の掘り起こし

重点目標 比較的意識が高い層による活動は、一定活発になっていて定着しているため、興味・関心はあるが実際の行動に結びついていない層や、関心が低いグループ、また、老若男女といった世代やその他様々な属性にかかわらず、将来にわたって積極的に暮らし続けたいと思える「かめおか」とはどのようなまちなのか、その実現にはどのように働きかけていくかについて、市民一人ひとりが常に問い続け、行動できる意識づくりを進めていきます。

また、依然として協働に対する認識が十分に及んでいないと言えない若年層や行政職員に対しても、引き続き意識啓発活動を進めます。

(1) 一人ひとりが住みやすいまちへの意識と目指すべき「かめおか像」を求めていく

○これからの亀岡をどのようにしていくべきか、していきたいかについて、自ら考えることで、まちづくりが一人ひとりの手によるものであるという意識を高めます。

→私たちのかめおか未来のまち語りフォーラムやまちづくり活動博覧会等において、各団体の地域課題の取組を紹介し市民等に意識啓発を実施した。

→市民活動フォーラムの開催により、協働について考える機会などを提供した。

(2) 課題への意識と協働の必要性・重要性への気づき

○存在する課題に関する市民の声を拾い、課題解決に向けた活動に繋ぐことができる仕組みを検討します。

→支えあいまちづくり協働支援金、ふるさと亀岡まちづくり交付金による活動につながる支援を実施した。

○なぜ協働が必要なのか、課題の提起と今までの取組紹介による啓発を行います。

→支えあいまちづくり協働支援金成果報告による取組紹介による啓発を実施した。

→市民活動フォーラムにおいて、市民活動や協働についての啓発を実施した。

(3) 住民との意識醸成と新たな担い手となる層の掘り起こし

○協働の場づくりについて、他市等の事例などを研究し、本市での実施を検討します。

→これまで市民活動に興味がなかった、関わりたくてもはじめ方がわからない、担い手の発掘を目的に他団体の活動を見学・体験できるように取組を実施した。

○意識調査等を通して、今まで協働への関わりが少なかった層が関与できる仕組みと掘り起こしを検討します。

→これまで市民活動に興味がなかった、関わりたくてもはじめ方がわからない、担い手の発掘を目的に他団体の活動を見学・体験できるように取組実施した。支援金活動団体を中心に見学会を開催した。

成果

・事業を通じて、各団体が地域の課題について取り組んでいる事例の発表や参加者との意見交流を行いそれぞれの意識啓発は図れた。

課題

・「私たちのかめおか未来のまち語りフォーラム」、「ワークショップ」等事業の実施をしても学生をはじめとする若者層など参加に繋がらないため、参加しやすい内容や周知に課題がある。

2. 活動開始初期から補助制度後の活動展開の支援まで

重点目標 行政の支援制度の活用もある程度進み、活用終了後の活動継続にあたって必要となる資金繰りや新たな活動手法について、フォローが必要であるため、創設されたNAWASHIRO基金等の各種制度の活用を含めて、団体が自立するに当たり必要となるノウハウ獲得の促進を目標とします。また、NAWASHIRO基金については、その制度の周知と活用促進を進めていきます。

(1) 支援金制度について

○亀岡市支えあいまちづくり協働支援金などの効果的な支援を継続します。

→亀岡市支えあいまちづくり協働支援金制度を継続した。(R2～5年度:延べ26事業を支援)

→令和5年度から立上げて3年以内の団体に特化して支援を実施した。

○他団体の活動事例や地域での施策・活動を研究して紹介したり、話を聞く機会を作ったりするなど、学びの場を設定します。

→まちづくり活動博覧会の開催、支援金活動団体の活動報告の展示、市民活動団体等の紹介冊子を作成した。

→かめおか市民活動推進センター登録団体の交流会を実施した。

(2) 補助事業後の資金確保手法に関する支援

○亀岡市支えあいまちづくり協働支援金活用後の資金確保について、亀岡AWASSHIRO基金を中心とした制度の仕組みづくりの検討と活用を促進を行います。

→共感者集めプログラムやチャレンジ助成金の助成制度の促進を行った。

→亀岡AWASSHIRO基金の認知度を上げるため、共感大賞を実施した。

○団体や寄附を行う地域住民に対してPRを行い、寄附による市民活動充実への意識向上を図ります。

→ふるさと亀岡まちづくり応援交付金制度の創設した。

(8団体に対して延べ123件、2,939,417円の寄附)

(3) 企業との連携手法の検討

○ビジネスや企業の社会貢献活動との協働の可能性について検討します。

→協働に関して事業所にアンケート調査を実施した。

○地域の資源が地域課題の解決につながる協働の仕組みや工夫について研究します。

→実績なし

成果

- ・ 亀岡市支えあい協働支援金では、地域課題の解決に取り組む市民活動団体を資金面から支援した。
- ・ 亀岡NAWASHIRO基金を活用し、行政の補助金に頼らない資金獲得を構築した。

課題

- ・ 市民活動と企業との連携手法など具体的な仕組みづくりには至っていない。

3. コミュニティ活動に向けた主体間の理解とつながりの創出

重点目標 知恵・ノウハウ・ネットワークを持った多様な主体（市民、地域、活動団体、事業者、行政等）が、地域課題について共通の認識を持ちながら、解決に向けた協働が可能となるよう、各方面に働きかけることで、主体ごとの役割について理解を深め、実践に移していくことを目標とします。

（1）地縁組織や市民活動団体の相互理解促進

○市民活動やボランティアについて、地域住民が関心を持ち理解していくための機会を創出します。

→私たちのかめおか未来のまち語りフォーラム、まちづくり活動博覧会、市民活動推進フォーラムの開催などによりそれぞれの活動に関心を持ってもらう機会の場を設けた。

○若い世代や新たに亀岡市内に居住し始めた住民に対して、自治会等地縁組織の役割を知る機会を創出します。

→転入者に対して自治会活動の案内、出前タウンミーティング、各自治会との地域懇談会を実施した。

（2）地縁組織と NPO 等の交流・連携

○市民活動団体や地縁組織、大学、中間支援機関、協働のマッチング事業を行う事業者等、それぞれのノウハウを持つ組織間のマッチングの仕組みを検討・実施・活用していきます。

→私たちのかめおか未来のまち語りフォーラム、まちづくり活動博覧会、市民活動推進フォーラムの開催などにより、それぞれの団体等の交流の場を設けた。市民活動推進センター登録団体間の交流会を実施した。

○団体間の情報共有できる講座や交流の機会を設けます。

→市民活動推進センター登録団体間の交流や支援金活用団体などの交流会を開催し団体間の情報共有等の場を設けた。

→支援金活用団体の活動見学会を行い、市民活動に対して関心を持ってもらう機会を設けた。

（3）協働による多文化共生のまちづくり

○従来からの住民だけでなく、国内からの移住者や外国人など新たに住民となる人々を含め、多様な背景を持つ人々が地域社会における日常生活や行事等の活躍を通して相互の理解と尊重に努め、協力し合いながら生活できる多文化共生のまち亀岡の土台作りを推進します。

→市民活動推進センターで開催の多文化共生を目的とした「つながりフェスタ」と同時開催で市民活動推進フォーラムを実施しロビーギャラリーにおいて市民活動の発表を行うなど様々な人の交流を推進した。

成果

- ・実施事業の発表の場を設けて、市民団体が交流する場を設けることができた。
- ・市民活動推進センター登録団体の交流会を開催し、各団体と交流の機会を設けた。
- ・各課、事業ごとに実行委員会の設置等、共通の課題に向けて市民と協働して事業を実施している。

課題

- ・地縁組織と NPO 等の交流・連携の機会を設けマッチングの仕掛けづくりが課題である。

4. 地域課題解決に向けた中間支援機能の強化と普及

重点目標 一定の分野や団体については、協働による活動が安定的になされてきている中、中間支援組織等の専門的な相談・指導・アドバイスのできる組織をさらに活用してもらえよう、体制の強化充実と普及活動を行うことで、協働の裾野の拡大を目標とします。

(1) 団体間の交流や、市民や大学・学生等と団体を結ぶ機会や手法の検討

○各団体の情報発信や講演会や講義、交流会を開催することで、他団体等のノウハウに触れたり、新たなアイデアを生み出したりするための機会を作ります。

→私たちのかめおか、未来のまち語りフォーラムの開催、まちづくり活動博覧会2022において各団体からの情報発信、団体間や参加者との交流によりそれぞれの立場での経験からアイデアを出し合いこれからの取組に向けての機会の場を設けた。

○地域ごとの課題の洗い出しや、解決に向けて市民と地縁組織、団体、行政等が話し合える場づくりに努めます。

→各自治会との地域懇談会の開催や出前タウンミーティングの活用を図った。

○大学・学生等の若者世代と市民や団体の気軽な交流機会の提供に努めます。

→市民活動見学会の実施を行った。

(2) 相談業務の強化及び行政以外の相談・協働相手と団体をつなぐ仕組みづくり

○人材確保や情報発信、管理運営のノウハウについて専門的なアドバイスを受けられる機会を作ります。

→かめおか市民活動推進センターの知名度を上げるために、事業を実施においてセンターを活用。

→かめおか市民活動推進センターにおいて団体の立上げや活動を行おうとされる方に対して相談業務を行った。

○外部の専門的な講習会や勉強会、視察先の提案を行います。

→市民活動推進フォーラムなどにおいて学習機会の場を設けた。

○民間事業者とのコーディネート体制のありかたを検討します。

→かめおか市民活動推進センターの運営に関する検討会を実施した。

成果

・多種多様な団体が集まり団体間や参加者との交流が協働の裾野の拡大が図れた。

課題

・かめおか市民活動推進センターの運営・機能強化に向けて、今後も継続して検討が必要。

5. 協働推進体制の検証と強化

重点目標 行政職員に「協働」という言葉は定着してきているものの、実際にどのような協働がどのような体制で行われているか、そこから、行政が参画する協働がより良いパフォーマンスと成果を生み出すためにはどのようなシステムが適切であるのかについて改めて検証し、情報を拡散することで、協働の機能性が可視化され、その連鎖が可能となるような体制づくりを目指します。

(1) 協働の成果の可視化

○市民団体が行う取組内容やノウハウを行政職員が学ぶことのできる場の設定の検討をします。

→支援金活用団体、交付金活用団体の取組内容については、関係課に申請段階と実績報告の段階で情報共有を行った。

→職員に向けて市民活動支援制度・活用団体の周知及び広報を実施した。

→新規採用職員への研修を実施した。

○亀岡市支えあいまちづくり協働支援金や亀岡 NAWASHIRO 基金を活用して実施されている取組内容について、ウェブやチラシなど様々な媒体を通じて、内外への発信に努めます。

→亀岡 NAWASHIRO 基金のホームページ、亀岡市ホームページ、市広報誌に事業内容の掲載やかもおか市民活動推進センターから登録団体にメールで情報発信を行った。

(2) 行政組織における協働の仕組みづくりの研究

○庁内において、協働に該当する事業の洗い出しと、機能性について検証します。

→実績なし

○今後の課題抽出や更なる協働に向けた可能性について他市等の事例を参考に意見を出し合い、今後のあり方について検討する機会の設定を図ります。

→実績なし

成果

- ・職員への協働に係る広報や研修を継続的に実施し、「協働のまちづくり」についての意識づけをすることができた。

課題

- ・行政組織において、事業の洗い出しが不十分であったり、協働の視点で評価する仕組みが確立できていない。